

日本と中国

② サンゴ船と首脳会談

懸案だった日中首脳会談がようやく実現したが、日本では会談直前に突如出現した中国サンゴ密漁船団と、首脳会談時に習主席が安倍総理に見せた仏頂面を以て、この会談を記憶することになった。

密漁船問題

首脳会談直前のため、メディアは最初大きな扱いで報道することを自粛したが、日本領海に踏み込んであからさまに環境を破壊する中国漁船の振る舞いを見せられて、世論が自然発火した。

環境破壊もさることながら、いきなり200隻もの中国漁船が日本の領海やEEZ内に押し入ってきた訳は？高い燃料代を払って採算が合うのか？と、日本には疑問がうずまく。

これを妄想と笑い飛ばすことはできない。漁業・漁民は農業・農民と異なり、ほとんど中国行政の眼中にない存在だが、そんな政府が出している唯一の漁業関連予算が燃料補助金だからだ(2013年は日本円で4600億円)。示し合わせたような漁船の動きの裏に政府の関与はなかったか？というのには当然沸く疑問だ。

日本の中国イメージは、この件でまた悪化した。後遺症を軽く見ない方がいい。

習主席の仏頂面

日中首脳会談を報ずるTV画面で見た習主席の仏頂面は、多くの日本人にショックを与えたようだ

しょう。

事前に両国政府が合意した4項目の中国側発表文を思い起こして、そう思った。合意文本体を上回る分量で、中国側はどういう立場から何を求めたのか等々の釈明を付け足していたからだ。合意文書は「中国側が欲しい内容を十分確保した」内容ではなかった。だから「合意文だけでは国内がもたない」ことを恐れたのであろう。

それでも会談に応じた理由

仏頂面と長々しい釈明を併せて振り返ると、今回、中国側は世論から反発されるリスクを冒して首脳会談に応じたのだという気がする。

それは「日本の対中投資が落ち込んだのを苦にしている」とか「経済が減速しているので、日中経済関係を好転させたいと願っている」からではない。もちろん会談を転機に両国の経済関係が盛り上がることを願う中国関係者は多い。

しかし、「投資欲しさに、『日本から一札取る』のもそこそこに会談に応じた」と受け取られれば、それこそ「国内が持たない」だろう。この点を誤解して、日本が「対中経済カードを持って

いる」などと自惚れてはいけない。

世論の反発リスクを冒してまで会談に応じたのは、尖閣の現場で偶発的衝突が起きてナショナリズムが沸騰し、課題が山積する内政が邪魔されるのを避けるためだと思う。とは言い、権力を確立した習主席でなかったら、そういう選択をすることもできなかっただろう。

事情は日本も同じである。会談実現のために日本の尖閣に関する立場を崩す訳にはいかないが、この問題でこれ以上両国関係の凍結が続くことも日本の国益に叶わない。

世界もこの2年間、日中間で武力衝突が起きることを真剣に心配していた。会談実現の後、世界中から祝意が寄せられたことをとっても、この会談は実現すべきものだったのだ。

「4項目は譲りすぎだ」という声が日本国内にあるが、中国にも同じくらい「足りない」という声がある。両国政府は互いの立場を譲らずに会談を実現するために「不合意に合意」した。後でそれぞれの国内で相手と食い違うことを言い合うのも「想定範囲」、良い分かれである。

これからのこと

笑顔の会談にならなかったことで、冷たい関係の「全面解除」には至らなかったのは事実だが、偶発的衝突を避けるための「海上連絡メカニズム」についての話し合い、ハイレベル閣僚対話、財務相対話の再開などが決まった。中国語で言う「総比没有好」(「ないよりずっとマシ」)、これを「第一歩」として両国間の問題を解きほぐしていくべきである。両国の争いは勝者を生まない。

(津上工作室 代表・津上俊哉)

「第一歩」とし問題解決へ